

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2010.2 第15号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成21年度総会ならびに研修会の報告

平成21年(2009)7月17日(金)、京都市東山区の智積院において、文化庁、京都府、京都市より来賓を迎え、また、智積院の岡部快圓真言宗智山派宗務総長にご臨席いただく中、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

まず、本協議会玉根徳四郎代表、続いて岡部快圓宗務総長、来賓の文化庁記念物課本中眞文化財主任調査官よりご挨拶いただいた後、議事に入りました。

議事は総会資料に従い、先に平成20年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成21年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、同会場で教養研修が行なわれました。

最初に、本中眞文化財主任調査官より、「文化財庭園とその後術」と題して、昨今の文化財保護行政、とりわけ、文化的景観と登録記念物制度の動向についてご解説いただくとともに、庭園は「生きた文化財」であるとともに1個の芸術作品であり、今後、名勝庭園の保護のためには、所有者・行政・専門家が連携して今後の保存に努めること、庭園の持つ歴史・芸術性を踏まえた保存が重要であること、とお話をいただきました。

本中眞文化財主任調査官の講演による教養研修を終え、智積院山内の飯田十基作庭の庭園や国指定名勝の書院の庭園において実地技能研修が行われました。尼崎博正評議会員より、各庭園の歴史や特徴とともに、護岸石組の整備の経緯などについてお話いただきながら、両庭園を実地に視察しました。



実地技能研修の様子（智積院）

翌7月18日(土)、会場を奈良県奈良市の奈良国立博物館に移し、同博物館の庭園において実地技能研修が行われ、尼崎博正・中村一・丸山宏評議会員の監修のもと、植栽の管理を行いました。

奈良国立博物館は、東京、京都にある国立博物館と同時期に建設された国立博物館で、他の2館と同様、博物館建設に併せて庭園が作られ、さらに各地に残されていたものの保存の危機にあった茶室などの建造物や石造品の寄進を受け、庭園にこうした建造物などを置いているのが特徴です。奈良国立博物館庭園内には、かつて奈良の興福寺内にあった茶室「八窓庵（はっそうあん）」などが保存されています。作庭当初の庭園の様相についてははっきりわかりませんが、庭園中央に池が設けられ、池の周囲に茶室が配置され、庭園内に園路がめぐっていることから、廻遊式を主としつつ、露地庭の役割も併せ持つ庭園であることが想像されます。また、明治～昭和初期にかけて作られた庭園のありようから考えて、明るい感じの庭園であったことが推測できますが、現状では、高木がうっそう

と茂り、かつての雰囲気失われつつある状況となっていました。そこで尼崎・中村・丸山各評議員より、池の周辺に茂っている樹木を中心に剪定し、八窓庵などの茶室周りを明るい感じに整えるとともに、庭園に隣接する博物館新館からの眺めも確保することを中心とした作業を行うという方針が提示されました。その後、玉根徳四郎代表が全体の技術指導を行いつつ、5班に分けられた参加者が、各班の正会員を中心として、樹木の剪定方法や、庭の景色のあり方などについて討議しつつ剪定作業を行い、各自技術の研鑽に努められました。



実技技能研修の様子（奈良国立博物館）



実技技能研修の様子（奈良国立博物館）

3日目の7月19日(日)も、前日に引き続き、尼崎・中村・丸山評議員の監修のもとで奈良国立博物館園において実技技能研修が行われました。2日間の作業の結果、茶室周りの雰囲気改めるとともに、博物館新館からの眺めも確保することができました。

最後に、各評議員より2日間の実技技能研修についての講評をいただき、また奈良国立博物館の畑中裕良副館長から、庭が本来の姿を取り戻ただけでなく、新館からの眺めにも対応した新しい庭園としても生まれ変わったとのことのお礼の言葉をいただき、実技技能研修を終えました。

庭園学講座16開催される

本協議会では、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座16「世界遺産の普遍的価値」を特別教養研修と位置付け、会員の方に開講のご案内をさせていただきましたところ、今回、10名の会員にご参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成21年(2009)8月28日(金)から8月30日(日)の3日間開催されました。

1日目は、京都造形芸術大学で、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より、「世界遺産は、今」と題して、世界遺産条約と世界遺産に求められている価値についての概要と、世界文化遺産「古都京都の文化財」に含まれる庭園の世界遺産条約の中での位置付けについてのご講演から始まりました。続いて、人間文化研究機構の金田章裕機構長より、「世界遺産とは—その考え方」と題して、世界遺産の持つ価値と、日本の文化財保護法における文化的景観などの持つ価値との類似点・相違点についてご講義いただき、さらに、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター副所長の中村利則教授より、「京都の文化財—夏・京都」と題して、京都に残されている様々な時代の文化的要素が世界遺産の登録に結びついた点についてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、世界遺産「古都京都の文化財」の構成遺産でもある清水寺の境内と国指定名勝の成就院庭園、さらに清水寺に隣接する古刹清閑寺を見学し、清水寺を中心として残る様々な文化的要素—文化的景観の様相について学ぶことができました。

2日目は、午前中は京都造形芸術大学での講義で始まりました。まずは、文化庁記念物課の本中眞文化財主任調査官より、「世界遺産と景観保護―その顕著な普遍的価値の保護をめぐる」と題して、世界遺産の登録状況とともに、文化的景観などをめぐる近年の世界遺産の登録の方向性や、過去の登録の経緯などについてご講演いただきました。続いて、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター研究員の内田俊秀教授より、「世界遺産の保存と危機管理」と題して、世界遺産条約が誕生するまでの経緯とあわせ、世界遺産の保存対策の現状と課題についてご講義いただき、さらに、当協議会の事務局次長で、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長の仲隆裕教授より、「世界遺産のこれから―庭園文化をめぐる」と題して、「古都京都の文化財」の資産を構成する庭園の世界遺産としての位置付けと、京都に残る多くの庭園との関係などについて問題提起も含めてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、初日と同様、世界遺産「古都京都の文化財」の構成遺産の仁和寺の境内と庭園を見学し、特に京都市の指定名勝でもある庭園の歴史や構成などについて、講師の先生方から様々にお話をお伺いしました。

3日目は、午前中は現地研修として、世界遺産「古都京都の文化財」の構成遺産の賀茂別雷神社（上賀茂神社）と二条城の二之丸庭園・本丸庭園・清流園を見学しました。賀茂別雷神社では神社の空間構成や、神事と空間との関わりなどについて学び、二条城では、近世作庭の二之丸庭園、明治作庭の本丸庭園、昭和に作庭された清流園を順に見学するとともに、世界遺産としての価値を残しつつ活用していく、二条城全体の将来構想などについてもご解説いただきました。

午後は、京都造形大学でのシンポジウム形式の講義となりました。まず、奈良文化財研究所遺跡整備室の平澤毅室長より、「世界遺産」をめぐる現状と課題」と題して、世界遺産条約に関わる様々な委員会などの役割とともに、世界遺産とはどういうものとして捉えられてきたのか、またその変化についてのご講義ではじまりました。その後、話題提供として、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター顧問の中村一教授より、「風情」が世界遺産を実感する上でのキーワードになるのではないかとお話いただき、続いて、平等院の住職で、造園家としても活躍されている宮城俊作氏より、平等院では文化的価値を守りつつ、庭園の整備や宝物館の建設など、新しい価値を生み出そうとしていることについてお話いただき、さらに、(株)プレック研究所社長で、I COMOS（イコモス、国際記念物遺跡会議）文化的景観国際学術委員会副委員長でもある杉尾伸太郎氏より、イコモスの役割とイコモス文化的景観国際学術委員会の設立の経緯や活動内容についてお話いただいた後、質疑応答・討論に入りました。

討論では、「普遍的価値」とはいったい何なのか、何が世界遺産の普遍的価値の「決め手」なのか、といったことについて討論がなされ、最後に尼崎博正所長により、これが普遍的価値という決定的なものではなく、多くの議論や交流の中で、互いの文化を認め合うことで、普遍的な価値も変化していくことこそが必要ではないか、と総括をいただいた後、閉講のご挨拶をいただき、3日間にわたる講座を終了しました。

平成21年度実技技能研修及び第6回文化財庭園フォーラム開催される

平成21年(2009)9月25日(金)～27日(日)の3日間、和歌山県海南市において実技技能研修及び文化財庭園フォーラムを開催し、35名の会員にご参加いただきました。文化財庭園フォーラムについては、本協議会の主催、財団法人琴の浦温山荘、和歌山県教育委員会、海南市教育委員会の共催のもと、本評議員会の尼崎博正・田中哲雄・中村一・丸山宏評議員の監修で、玉根徳四郎代表を筆頭に見学会・シンポジウム共に一般公開形式で行いました。その概要をご報告いたします。

9月25日(金)、26日(土)には、和歌山県海南市に所在する温山荘園を研修会場にして、実技技能研修を実施しました。剪定技術により、どのようにして本来の庭園の姿を取り戻すか、評議員、会員諸氏で討議した上で、玉根徳四郎代表が全体の技術指導にあたり、正会員を中心に管理実技が進められました。そして26日(土)には、文化財庭園フォーラムの一環として文化財庭園保存管理技術見学会を開催し、温山荘園の歴史やその価値について解説するとともに、本協議会技能会員の庭園管理技術を広く一般の方に公開しました。

温山荘園は、製革業を営んでいた新田長次郎により大正～昭和初期にかけて作られた邸宅で、黒江湾に面した土地の一部を埋め立てて造営されました。敷地のほぼ中央、周囲より一段高い場所に主屋があり、その東西には大池が設けられ、西池の西側には自然の丘をそのまま利用した山があり、亭が構えられています。この山にはトンネルが掘られ、このトンネルを抜けると黒江湾の海辺に至るという、非常にスケールの大きな庭園です。また、護岸の石組は一見自然石に見えますが、コンクリートの擬石が多く用いられているなど、独自の技法を用いて作庭された



実技技能研修の様子（温山荘園）

庭園でもあります。かつては主屋からの眺望や、庭園各所からの山の眺め、果ては黒江湾の風光を楽しめた庭園ですが、黒江湾は昭和30年代以降に埋め立てられてしまい、海までも庭園に取り込んだ大胆な構想の風景は眺められなくなりました。また、長年にわたる樹木の伸長により、特に主屋からの眺望が遮られるようになっていました。

そこで今回は、主屋周辺の大きく伸長している高木・低木の強剪定を中心に作業を行った結果、主



見学会の様子（温山荘園）

屋からの眺望が確保できるようになると共に、逆に庭園から主屋を眺めることもできるようになり、庭園の景観が一層引き立つようになりました。この作業の様子を眺めていた見学者の方からは、剪定するほどに眺望があらわになっていくことに感嘆の声があがるとともに、そうした作業を段取りよくこなしていく会員諸氏の技術の確かさにもしきりに感心の声があがり、庭園の本来の姿が取り戻されたという実感とともに、今回の研修の成果を確認することができました。

9月27日(日)は、海南市の海南保健福祉センターをお借りして、文化財庭園フォーラムのシンポジウムを開催し、本協議会の会員を含めて多数の方にご参加いただきました。第1部の講演会では、文化庁記念物課の本中眞文化財主任調査官より「名勝の保護」と題して、文化財の種別、名勝に含まれる文化財の種類や近年の名勝保護の傾向、最近に指定・登録された庭園の概要や関連する法律についてのご講演をいただきました。

第2部パネルディスカッションは、「文化財庭園の保存継承」をテーマにすすめられました。コーディネーターを文化財指定庭園保護協議会の樋渡達也会長にお願いし、パネラーとして、和歌山県教育庁文化遺産課の高橋智也氏、奈良文化財研究所文化遺産部の栗野隆研究員、京都造形芸術大学の尼崎博正教授、日本城郭研究センターの田中哲名誉館長、京都大学の中村一名名誉教授、名城大学の丸山宏教授をお迎えして議論が交わされました。

まずはパネラーの方々からの報告がはじまりました。最初に、高橋智也氏からは和歌山県内の庭園の保護の経緯について、栗野隆研究員からは温山荘園の歴史と特色について、さらに田中哲雄名誉館長からは庭園内の石やコンクリート製品の保存管理についてお話いただきました。

そして、中村一名誉教授からは、和歌山の海岸（州浜）の景観が、日本庭園に非常に大きな影響を与えたと考えられないかとのお話をいただき、丸山宏教授からは名古屋の庭園におけるコンクリート製品の利用についてご紹介いただき、最後に尼崎博正教授には、海面の埋め立てで温山荘園の周辺環境が一変してしまったが、文化財庭園では植生を維持することとともに、周辺環境も含めて保存していくことが重要であるとのお話をいただきました。



文化財庭園フォーラムの様子
(海南保険福祉センター)

こうしてパネラーの報告の後、パネルディスカッションとなり、庭園の捉え方や保存・維持管理について様々に議論が交わされました。

そして最後に、樋渡達也会長に、和歌山には素晴らしい景観や庭園が残されており、温山荘園ではコンクリート製品も芸術品といえるほど創意工夫が凝らされており、コンクリートも庭園の素材となり得ることが確認できるなど、「革新的」ともいえる新しい試みが行われた点でも非常に貴重なものであること、庭園の維持には、所有者・技術者・市民の連携が必要不可欠であり、温山荘でも、3者が一体となった新しい取り組みを進めていってほしい、と締めくくっていただきました。

なお、フォーラムの翌日9月28日(月)には、同じく和歌山県内にある高野山内において実地技能研修を行いました。高野山は古来より霊峰として多くの修験者や参拝者が訪れる古刹であることは、わざわざご紹介するまでもありませんが、山内にはいくつかの庭園が残されており、また造園家・庭園史研究家として名高い重森三玲氏が昭和30年(1955)に前後して作庭した庭園があります。今回はその中から、国指定名勝の天徳院庭園、和歌山県指定名勝の宝善院庭園、さらに重森三玲氏作庭の西南院、桜池院、正智院、福智院の4庭園を見学しました。

山裾に枯滝石組を設けた小池のある天徳院庭園、平地上に池を中心に作られた宝善院庭園、池底まで石が敷き詰められ、石橋や景石などに見ごたえのある枯山水の西南院庭園、竹垣に囲まれて瀟洒に作られた白砂敷の枯山水と脇に並ぶシャクナゲとの対照が特徴的な桜池院庭園、山門を入ってすぐにある瀟洒な枯山水と、奥にある山の斜面を利用して天を見上げるように作られた枯山水との対比が強烈な正智院庭園、竹垣の後ろに奇岩怪石を林立させたような枯山水の福智院庭園、といったように、小さいながらも個性のある庭園を、各寺院の方や評議員の解説を聞きながら見学した後、高野山奥の院を参拝しました。そして最後に、尼崎博正・田中哲雄・中村一・丸山宏評議員ならびに奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室の栗野隆研究員より全体の講評をいただいて、4日間の研修を終了しました。

これらの寺院はいずれも宿坊を営まれているため、一般の参観を行っていない場所ばかりですが、各寺院のご好意により見学をご許可いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2009-文化財を支える『伝統の名匠』-」開催される

平成21年(2009)12月12日(土)・13日(日)、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティにおいて、文化庁主催シンポジウム『文化財保存技術2009-文化財を支える『伝統の名匠』-』が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体25団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会では事務局2名が出席し、本協議会の活動を広く認知してもらうため、実技技能研修や技能技術錬磨などの研修会の状況のパネル展示を行いました。



文化庁主催シンポジウムでの展示風景。パネルの前に小型の四ツ目垣など4点を展示しました。

今回は、従前よりのパネル展示に加え、四ツ目垣、建仁寺垣など、垣根の実物の展示を行いました。一般の方からも種々のご質問をいただきましたが、歌舞伎などの舞台道具製作関係の選定保存技術保存団体の方からは、垣根の設計や製作について様々なご質問をいただくなど、他の選定保存技術保存団体との交流もはかることができました。

また、シンポジウム期間内には、選定保存技術保存団体の連合体である全国文化財保存技術連合会の総会も開催され、連合会の平成22年度の事業計画の審議とあわせ、石垣技術など、新たな選定保存技術保存団体の加入が承認されました。

新規加入会員の紹介

平成21年(2009)12月末日で技能会員は133名、支援会員・賛助会員は21団体、2名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員区分	氏名	所属
準会員補	藤田 智	石菖
準会員補	森重 政信	(有)森重花樹園
準会員補	角田 彰	東京都建設局公園緑地部
準会員補	木村 央	東京都建設局公園緑地部
準会員補	北村 均	東京都建設局公園緑地部
準会員補	兵藤 勝幸	藤崎造園
研修会員	竹村 茂好	植彌加藤造園(株)

会員区分	氏名	所属
研修会員	山口 満	植彌加藤造園(株)
研修会員	神藤 和憲	(株)_石造園土木
研修会員	百田 誠	樋口造園(株)
研修会員	安部 直人	樋口造園(株)
研修会員	森寺 善昭	花豊造園(株)
研修会員	後藤 敏之	後藤石水造園(株)
研修会員	高橋 正博	高橋造園

(編) 本年度もあとわずかとなりました。お仕事の多忙な時期と存じますが、皆様もくれぐれも体調には気を付けて本業ともどもお気張り下さい。

昨年春頃より体調を崩しておられた龍居先生ですが、秋には復調されて全国を飛び回っておられます。温山荘園にも行かれて、実技技能研修の成果をご覧いただきました。ご報告させていただきます。

なお、事務局ではここを研修会場にどうか、というような提案をお待ちしております。その他、わからないことなどございましたら遠慮なくご連絡下さい。

最後になりますが、本年もどうかよろしく願いいたします。